



公立高入試 後期試験がんばれ!

―― 後期で合格した先輩の声 ――

★S・Mさん 柏教室 中3A1コース在籍

(進学先) 県立柏高校

いつ質問しても快く答えて教えてくれたのが私にとつてとても良かったです。また、前期で不合格だったときに点数が悪かった教科の先生が相談にのってくれたり、励ましてくれたりして、精神面でも支えられました。後期直前では、色々な先生が応援してくれて、私も「頑張ろう。」という気持ちになることができました。結果は見事合格!自己採点では点数が前期よりも七十点も上がり、すごく嬉しかったです。結果が出た後にも、「本当に良かったですね。」などのあたたかい声をかけてもらい、心から創学舎に入って良かったなあと思いました。V模擬でも四十%だった第一志望の高校に合格できて幸せです。ありがとうございました!



★S・Mさん 新柏教室 中3A1コース在籍

(進学先) 県立柏中央高校

前期試験では直前まで第一志望校を下げるか悩みましたが、その自信がなかった志望校に挑戦できたのは、先生方が背中を押してくださいましたからです。前期試験は落ちてしまいましたが、挑戦で

きてよかったですと思っています。後期試験までの十日間、毎日塾に通い合格を目指しました。自分専用の予定表を作ってくれたり、毎日さまざまな先生とコミュニケーションがとれたりしたことで、とても励まされました。そのおかげで後期試験は合格することができました。

★A・S君 新松戸教室 中3Sコース在籍

(進学先) 県立小金高校

前期試験の合格発表があった頃の私の学力では、後期を受けても落ちていたと思います。そこで、私は後期試験までの一週間に、今までのテキストやワークを解きまくりました。苦手科目を重点的にやりつつ、全教科、精度の高いテキストをやり込むことで前期試験よりも約五十点の得点アップをすることができました。

★S・Y君 柏教室 中3A2コース在籍

(進学先) 県立小金高校

実は十二月まで小金高校はほとんど無理だと言われていました。しかし、小金高校という夢を捨てられなくて必死に勉強しましたが、前期は落ちました。ここで後期も挑戦し、落ちたら何か言われると思いましたが、志望校を変えるなら私立に行つたほうがいいと思ったので、そのまま挑戦することにしました。残り一週間は学校が終わつてから、塾に来て、先生と一対一で勉強して量より質を求めて勉強しました。その結果、後期で合格できました。塾のI先生は入試日に学校まで来て応援してくれました。たくさん人の支えがあったからこそ、可能性が0とも言われていた小金高校に合格できたと思います。



★M・Oさん 新柏教室 中3Sコース在籍

(進学先) 県立東葛飾高校

自分の番号を見つけた瞬間、一番に創学舎の先生方の顔が浮かんだ。前期に落ちて、後期までの期間は特に、塾の存在をとて大きく感じた。先生のかれた言葉は本当にすこく、魔法にかかったように私は強くなれた。

★W・Mさん 我孫子教室 中3S1コース在籍

(進学先) 県立東葛飾高校

公立は、前期選抜は落ちてしまったけれど、自分を信じるという先生の言葉を信じて頑張ることができました。最終的に後期で合格。諦めないで今まで頑張ってきたことに良かったと思つています。先生方大好きです。ありがとうございました。

★S・Mさん 江戸川台教室 中3A1コース在籍

(進学先) 県立柏南高校

どんなに頑張っても成績が伸びなくて、いつしか勉強に対してやる気がなくなり、家では全くやらなくなってしまいました。だから、模試の志望校判定はいつもCかDでした。そのまま前期試験に突入し、江戸川台教室は私以外全員合格していました。「前期では絶対合格出来ないよ」と言っていた私でも、この結果にはさすがにショックでした。それから、先生と私の一対一の授業で、先生方は私の苦手なところを徹底的に教えてくれました。短い期間でしたが、この一年で一番充実していた期間だったかもしれません。最後に教室長の先生は「二度と前期のような思いはさせないから」と言ってくれました。普段優しい言葉をかけられたことがなかったもので、涙が止まりませんでした。後期試験では、前日に塾でやった問題や、試験の始まる前に読んでいた創学舎のテキストから、い

くつか問題が出題され、全部解くことが出来ました。そして二週間遅れの合格通知が届きました。本当にありがとうございました。

★H・S君 新松戸教室 中3Sコース在籍

(進学先) 県立柏南高校

前期を受けて、一週間待ち、発表を見に行った。「前期は受かったらラッキー」と思っていたので、正直落ちてもいいかと思つて発表を見に行った。しかし、いざ発表を見ると自分の番号がなく、思っていたよりショックだった。そこで、この一週間本気で勉強しようという覚悟を決めた。それから、毎日四時に塾に行き、自分の苦手な理科と社会に重点を置き十時半まで勉強した。ペンを握らない時間が怖くなり、寝るときも不安だった。そんな一週間を送り、いざ、後期を受けた。テストが終わわり、自己採点すると点数がひどかった。全体の平均点はわからないが、友達が良い点数だったのでショックだった。落ちたと思いつつ発表を見に行くと、自分の番号があった。今までの努力が無駄ではなかったのが良かった。



調べるよるん(りん)

ある日曜日の昼下がり、私はそれほど混んでいない電車の中で、座りながら科学に関する本を読んでいた。電車が駅に到着し、ふっと顔を上げたら、私が乗っていた車両の人々は寝ているか、スマホをいじっているかのどちらかであった……。

別に今更珍しい状況でもない。ごくありふれた風景だ。私も電車で移動中、スマホで興味を持ったニュースを見たり、ふと興味を持ったことを調べたりすることはある(ひと昔前はこれをネットサーフィンといったが今もこの言葉を使うのだろうか)。ただ、私の場合、移動中にスマホで得た情報の割合は、目的地に到着するとともに忘れてしまう。かろうじて残った「これは面白い」という豆知識なども一晩寝ればほとんど記憶に残っていない。結局、移動中でのスマホ

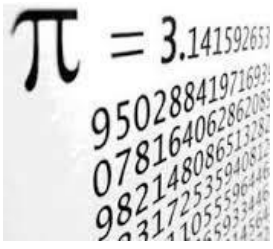


での情報取得は、興味を持って調べたつもりでも暇つぶしでしかないということに気づく。ここ何年かテレビを見る機会を意図的に少なくしているのですっかり忘れていたが、テレビの「流し見」と同じだ。「読む」や「見る」という行為を自ら選択しているのに何故か受動的なのだ。その点で、読書の方が内容をつかもうと意識して読むため、スマホやテレビの流し見より、記憶に残る気がする。

そこまで考えて、私の思考は突然、中学二年の夏にとんでしまう。中学二年の夏の自由研究で、私は円周率のことを調べて何枚かのレポートにまとめた。当時の私はそれほど数学が好きではなかったが、円周率に関しては別だった。あの気味悪いほどに続く数の羅列を、なんだか怖いと思いつながらも興味を持っていた。私が通っていた中学校では、夏休み前に自由研究のタイトルと調べる内容を数行で科目担当の先生に伝えることになっていたので、伝えたいからにはその内容に沿って調べないといけない。夏休みに私は何度も図書館を訪

れ、円周率に関する本を探し、それらの本を読んだ。理解できないところも多かったが、円周率の定義(約束事)から始まり、円周率の簡単な歴史、円の面積公式の理屈、円周率の手計算(図を書いて計算する方法)での求め方など、理解できるところを手書きでまとめていった。学校から出ていた夏休みの宿題も図書館の自習室で片づけていたので、何日くらい図書館に通いつめたのだろうか。夏の暑い中、自宅から図書館まで十五分くらい自転車をこいで、今にして思えばなかなか涙ぐましいことをしていたなあ、と我ながら思ってしまう。今の時代なら、インターネットで検索して、関連する内容をピックアップして、コピー&ペーストしてしまえば、一日で仕上がってしまうだろう。当時の私が、そんなことを聞いたら驚愕し、「私の夏休みを返せ!」と叫ぶに違いない。本当に世の中便利になったものである。

もつとも、今回、私が伝えたいのは、「世の中が便利になった」ということではない。興味を持ったことについて、少々大変ではあるが、能動的に調べて、自分の手で書いて、自分の頭でまとめたものは、かなり記憶に残るし感動も大きいということだ。私が中学二年のときに、何度も書いて覚えた円周率の数の羅列は今でも記憶に残っている。また、円の面積公式の理屈を知ったときの「そうだったのか!」という感動も、いまでも鮮やかに残っている。インターネットでさっと調べてまとめても、かける時間の大幅削減にはなるが記憶にはそれほど残らないし、得られる感動も少ないであろう。



試験への心構え

私の仕事は、授業の中で数学や理科に関する知識をわかりやすく伝えることだが、やはり皆さんが少しでも興味を持てるようになってなんとか工夫していきたい。それをきっかけとして、皆さんが興味を持ってさらに深く調べてくれたり学んだりしてくれたら、これほどうれしいことはない。(本多)

受験が本格化しているが、すでに進路が決まった生徒にはおめでとくと申し上げる。また、学年末試験を終えた生徒は早速解き直しなどの復習を実施していただきたい。そして、以下にこれから受験を迎える生徒と学年末試験を迎える生徒へ、私の経験で得たアドバイスをいくつか書かせていただくことにした。参考になれば幸いです。

其の一 「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」(上杉 鷹山)

やるからできる、やらないからできない、何事もできないのはその人がやらないからだ。このような意味であるが、結果が出ていないのであれば結果が出るまでやっていると考えるべきである。こう考えて、「自ら行動しなければ結果というものが出ないもの」と理解しなくてはならない。但し、人が自らに甘いのは古今東西の常である。自分の甘さとの我慢比べに克つことが結果を出す上で前提条件となる。まさに「克己」である。

其の二 「急がば回れ」

早く試験範囲の学習を終えたいから、スピードアップのために途中式や座標を書かないで演習をする。残念ながらこんな子が最近目立つような気がしてならない。途中式などを書かずに演習する

子の多くは数学に苦手意識を持っていて、演習スピードが遅いことでテストを最後までやりきれないという経験をしているようだ。しかし、書いて演習するほうが結果的にスピードアップするし、正答率も格段に上がる。頭の中だけで処理するよりも目から入る情報も併用したほうがミスは確実に減るし、苦手意識のある子は確認ができて安心できるのだ。スピードアップはしたものの、正答率が上がらない、むしろ下がったでは本末転倒である。

社会の一言一答問題の用語をひたすらに覚えようとしている子も多く見かける。答えである用語を必死に暗記しようとしているが、その問題文と同じように問われることはまずない。用語から問題文を答えられない、あるいは、用語を説明できるようになつて初めて自分のものになったといえる。こうなれば応用問題や記述問題も正答できる。場当たりの暗記に頼ることは、焦りを生み、不本意な結果になってしまうことが多い。

いずれにしろ、テストなどで結果を出したいのなら、事前の練習で手間をかけなくてはならない。そのほうが結果的に目標達成への近道になる。一見遠回りであるように見えるが実は近道になっているのだ。

入試や学年末試験まで、残り日数が僅かの生徒もいることだろう。この残った時間を全力で学習して最大限の成果を得られるように祈念している。

(山崎)



▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。